

不当解雇撤回ストライキ闘争集約にあたって

名古屋地本組合員19名は力強くストライキ闘争を断固貫徹した。すべての組合員で、この闘いの意義を確認しようではありませんか。

われわれは、本日24時をもって、名古屋地本業務部長・加藤誠二さんへの不当懲戒解雇撤回の要求を掲げて闘ったストライキ闘争を集約する。

7月13日突如としてかけられた不当大弾圧を契機に、全機関で闘争委員会を設置し、いつでもどこからでも闘える組織体制を確立し、全職場から闘った。抗議集会、街頭・職場内ビラ配布行動、会社への申し入れ、苦情処理申告、裁判闘争、記者会見、情宣活動、職場集会、そして9月27日蒲郡駅における抗議行動など、でき得ることはすべて闘った。

何よりも、ストライキ闘争とあわせて闘った主任レポート提出拒否の闘いを、一糸乱れることなく貫徹した。提出を迫る管理者に対し、組合員は果敢に闘った。また、主任ではない組合員も、主任レポートに代わる闘いとして非協力闘争を闘った。われわれは、これらの闘いを通じて、会社経営陣、とりわけ葛西会長の喉元に突き刺さる闘いを展開した。そして、何よりも確実に組織強化を勝ち取ったのだ。

しかし、会社は組織破壊攻撃の手を緩めることはない。養殖＝JR東海ユニオンも然りである。動あれば反動あり。会社とJR東海ユニオン一体となった組織破壊攻撃は、常軌を逸したというレベルにとどまらない。『組織情報』「海労家宅捜索シリーズ」を読めば一目瞭然である。われわれは、会社とJR東海ユニオン一体となった闘争破壊攻撃を断固はね返してきた。そして、これからも組織破壊を許さない闘いを展開する。

われわれは、今時解雇撤回ストライキ闘争を集約する。だが、不当懲戒解雇撤回の闘いは、今まで以上に強化しなければならない。主任レポート反対の闘い、非協力闘争など職場からの闘いを、さらに推し進めていこうではないか！加藤誠二さんを職場に取り戻すまで、全組合員一丸となって闘おう！

今時闘争に支援・連帯していただいた全国のJR総連に結集する仲間の皆さんに厚く御礼申し上げ、ストライキ闘争を集約することとする。

2007年11月5日

J R 東海 労働 組合